

研究機関名：仙台医療センター

受付番号：

研究課題名

日本外傷学会多施設臨床研究「小児鈍的肝損傷および脾損傷の自然経過と診療パターンの検討：多施設後ろ向き観察研究」への参加

研究期間 西暦 2020年 11月(倫理委員会承認後) ～ 2024年 8月

研究責任者

救命救急部長 山田 康雄

研究の意義、目的

近年小児においては、鈍的外傷による肝損傷および脾損傷の治療法は非手術的治療が一般的に選択されるようになってきているが、外傷性肝損傷および脾損傷後の仮性動脈瘤の頻度や自然経過については未だ不明なところが多い。

欧米からの報告では、小児の外傷性肝損傷および脾損傷後の2回目以降のフォローアップ画像検査に関しては否定的な意見が多く、施行されても超音波検査が中心であり、造影CT検査によりフォローされることは少ない。一方、我が国はOECD諸国の中で最も多くのCTスキャン装置を有していると言われており、外傷性肝脾損傷患者に対して行ったパイロット研究(10施設の多施設後ろ向き観察研究)では、小児に対して急性期治療としてインターベンショナル・ラジオロジー(Interventional Radiology; IVR)による血管内治療が施行される頻度とフォローアップCTが撮影される頻度が欧米に比して多いことが示されている。小児においては放射線被曝の問題等もあり、成人以上にその適応に関しては議論があるところである。

成人同様の適応で、小児においてもCT画像のフォローを行うべきか、IVR治療を施行すべきかなど、いまだ不明な点が多く、本邦での多施設共同研究によりこれを明らかにすることが望まれる。

本研究により、小児の肝損傷・脾損傷に対する放射線学的治療ならびにフォローアップのあり方について、一定の指針が得られると考える。

対象

- 病理組織(対象臓器名)
- 生検組織(対象臓器名)
- 血液材料(対象臓器名)
- その他(カルテからのデータ収集)

上記の採取期間 西暦 2020年 11月 ～ 2021年 10月
(対象は、2008年1月1日～2019年12月31日までに、当院に入院した16歳以下の、鈍的外傷による肝損傷および脾損傷患者)

採取場所 救急科

研究方法

カルテから調査項目のデータを収集し、匿名化により個人の特特定がなされない処理を行った上で、研究代表施設(沖縄県立中部病院)に送付する。

参考事項

問い合わせ及び苦情等の窓口

仙台医療センター

〒 983-8520 仙台市宮城野区宮城野2-11-12

電話 022 - 293-1111

ファックス 022 - 291-8114

※研究に利用されたくない場合には、上記窓口までご連絡願います。